



未来を拓く力

暦の上では春を迎えましたが、まだまだ寒い日が続いています。少しずつ春の訪れが感じられるようになることを願いながら、子どもたちのここまでの成長を来る令和8年度につなぐ準備のひと月にしたいと思います。さて、子どもの成長を考えると、テストの点数や成績といった「認知能力」(見える学力)が目立ちがちですが、それだけでは十分とは言えません。近年「非認知能力」の重要性がますます叫ばれるようになってきました。このことは以前学校だより「天茶っ子」12月号でもお知らせしましたが、その背景には、社会の変化やこれからの時代に求められる力の変化があります。現代社会は、AI(人工知能)やデジタル技術の進化によって大きく変わりつつあります。知識や計算力など従来の「認知能力」だけでは対応しきれない時代になってきました。これからの社会では、変化に適応しながら学び続ける力や人と協力しながら学び続ける力や人と協力して課題を解決する力重要になると言われています。また日本だけでなく世界中の教育機関や企業でも、学力だけでなく「最後までやり抜く力」「自己肯定感」「協調性」「感情をコントロールする力」などが、人生の成功や幸せに大きく影響することが分かってきました。学校では課題解決型の授業、地域とのつながりや人との出会いを大切にしたい探究的な学び、特別活動の自治的活動等を通して非認知能力が育成できるように取り組んできました。また5・6年生ですが「非認知能力育成」のプログラムをスタートさせました。またご家庭でもお子さんが努力した家庭に目を向け「頑張ったね」「工夫したね」と声をかけることで、非認知能力がより生まれます。結果だけでなく「どうやって頑張ったのか」「次にどうつなげるか」を一緒に考えることが、子どもたちの成長につながります。「できたこと」を認め「失敗しても学びがある」と伝えることで、子どもたちは自信を持ち、より積極的に学びに向かうようになります。

3月18日は6年生が学校の締めくくりである卒業証書授与式を挙ります。卒業式は、「卒業する喜びを一人一人に味わわせることにより、本校の卒業生であることに誇りを持たせ、学校・家庭・地域社会などに対する感謝の念を醸成する」「卒業生の前途を祝し、先輩の残した立派な伝統を受け継ぎ、さらに向上・発展に努める心構えを育てる」集団の場における規律と礼儀正しさを養い、気品ある態度を育てる」のねらいがあります。本校では、在校生・卒業生がそれぞれの立場で自分の心を育て、ひたむきに自分の気持ちを相手に伝えるような卒業式にしたいと考えています。

卒業生「ありがとう」「さようなら」在校生「おめでとう」「ありがとう」「さようなら」これらの心は、今から育てるのではなく、すでに卒業生と在校生の人間関係の中で培われている思いをより明確にすることでより強くしたいと思います。これまでの学校生活や縦割りの活動の中で、卒業生にお世話になった出来事やいっしょに遊んだ思い出を呼び起こしていけば、心は自然に育つと思います。

児童にとっては一生に一度の卒業式、集中力を持続させ、しっかり感動的な歌声を体育館に響かせ、起立・礼・着席などの動作もきびきび行うことを期待しています。